（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日　令和　6年10月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100625号
法　人　名	株式会社ショコラ
事 業 所 名	グループホームショコラながかり
所　在　地	鹿児島県鹿児島市宇宿九丁目9番13号 （電 話）099-802-4834
自己評価作成日	R5.6.16

※事業所の基本情報は，WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームは、宇宿の閑静な住宅街に立地しており、近くに医療機関やスーパーなどあり、利便性に恵まれた環境の中にあります。また、同じ施設内に小規模多機能ホームが併設しております。ショコラグループとして、グループホームショコラうすき・ショコラうすき通い・かごしまショコラ保育園・しょこらクリニックの事業も行っております。グループホームながかり独自の理念として、『一日一日を大切に相手に合わせる介護をする』をモットーにご利用者様の気持ちに寄り添い耳を傾けることを重視して日々支援しております。また、個人の尊厳を大切にし、入居者様お一人お一人の気持ちを尊重しつつ、ホームでの生活が充実したものになるように努めております。ご利用者様と御家族様との絆や関わりを大切にし、コロナ禍では感染対策を講じて安全面に配慮して面会の時間を提供しておりました。また、施設の中での様子がお分かりいただけるよう、日々の様子や活動の様子を写真におさめ、ひと月ごとに発行のショコラ便りにお便りを添えて近況を報告させていただいております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町１６番A棟３F３０２号
訪問調査日	令和　6年10月17日

　ホームは鹿児島市宇宿地区の幹線道路から一筋入った閑静な住宅地に平成２３年に開設している。周辺は多くのマンションや商業施設、医療機関、薬局等の事業所が建ち並び利便性は良い。建物の２階部分がホームになっており、階下は同法人の小規模多機能ホームが併設されている。園庭のプランターには季節ごとに野菜や草花が植えられ、散歩時の利用者は四季を感じながら愛でている。現在、介護度２～５（平均介護度３.８），平均年齢８４.9才の９人の利用者が入所しており、重度化で独歩不可能な利用者もいるが、利用者毎の状況に応じたきめ細かなケアを受けながら、快適で平穏な日々を過ごしている。
　管理者及び職員は、ホームの理念を基に毎月の目標と日々の目標を設定して、利用者がその人らしく１日１日を大切に生きがいを持ちながら穏やかに過ごせる支援に努めている。周辺の散歩やドライブによる外出、日常的な趣味や生きがいとなる家事の取り組み等、利用者が望むことは可能な限り叶えるように取り組んでいる。コロナ感染症が５類に移行したのを機にドライブによる季節の花見等、外出等の機会を増やし、また、家族との外出や一時帰宅、会食等も推奨して利用者のリフレッシュを図っている。
　管理者及び職員は、何でも気軽に意見を言い合える信頼と協力関係を築いており、日々の業務の中や毎月のミーティング等でホームの運営やケアについての意見を出し合って改善に取り組んでいる。休憩時間の確保や勤務シフトには有給休暇の取得や資格取得へのバックアップ、個人的事情等への配慮に務め働きやすい職場環境の構築に務めている。法人による給与体系や休暇制度、福利厚生等も充実しており職員の定着率も高い。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にてショコラの理念とながかりの理念を唱和し理念の共有とともに意識を高めている。また、理念に基づく運営方針を盛り込んだショコラ行動手帳よりユニットのひと月の目標と１日の目標を定め実践に臨んでいる。日常のケアやミーティング等で振り返りを行いながら意義の理解を深めている。	ホームの理念「一日一日を大切に相手に合わせる介護をする」をホール等に掲示し、職員及び利用者共に周知している。日常のケアの中やミーティング等で理念の意義の確認やケアの実践状況の振り返りも行う等、基本に立ち返りながら支援に努めており、行動手帳から毎月の目標及び１日の目標も設定して理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板で地域情報を得ている。町内会の行事は、職員だけではなく可能な限り入居者様も一緒に参加し地域住民との交流を図っている。（夏祭り、敬老会等　※現在は参加については感染症の状況によります）向陽小学校の職場体験の受け入れなども行っている。また、日頃より地域の方と挨拶を交わし交流を図っている。	新型コロナ感染症が５類に移行したのを機に地域との交流を再開しており、地域の情報を回覧板で把握し、家族、友人との面会（毎週日曜日２０分間、予約制）や周辺の散歩及び通院時の挨拶、訪問美容、小学生の職場体験の受け入れ等を実施し、野菜を頂くなどの交流が図られている。住民から寄せられる認知症ケアや高齢者福祉に関する相談等にも丁寧な助言に努めている。ボランテイアの受け入れは現在も自粛中で、徐々に再開されている地域の行事（夏祭り他）への参加については周辺地域の感染状況に配慮しながら検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症見守りメイトの実習受け入れ施設となっており、認知症の人の理解や支援の方法を学ぶ場として提供しています。（コロナ禍は受け入れ自粛）また、介護保険申請や介護相談等も対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・ご家族・地域包括支援センター職員・民生委員が参加し開催している。　　御家族に対しては年2回アンケート調査を実施し頂いた意見について意見交換や話し合い、改善を図っている。また、医師や地域の薬局に協力を得て勉強会を開催している。	新型コロナ感染症に配慮して法人内の委員での会議が続いていたが、５類に移行したのを機に令和５年度からは本来の会議を隔月毎に開催している。利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター、法人の管理者等が出席して、ホームの現況、イベント、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からのケアに関する意見や地域の情報等を基に意見交換して運営やケアの改善に繋げている。家族アンケート（年２回）の結果を基にしての意見交換や調剤薬局の薬剤師による勉強会等にも取り組んでいる。家族の積極的な参加の促進を検討している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは事務手続き等の他にも、ケースにより相談等も行っている。生活保護受給者が3名おり、担当のケースワーカーとの連携も図れている。長寿安心相談センターに出向き、事業所の状況報告を行うなど連携を図っている。また、介護相談員の受け入れも行っている。	市の担当者には日頃の連携でホームの状況の理解を得ており、窓口に出向いたり電話、メールで介護保険の更新や各種制度の協議等に取り組んでいる。生活保護受給中の利用者の処遇に関する連携も担当ケースワーカーと密に行い介護相談員も積極的に受け入れる等、協力関係を築いている。ＦＡＸやメールによる情報の把握に務め、研修も出会やオンライン等で積極的に受講してサービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて身体拘束について学んでいる。研修を通して身体拘束となる行為についても理解している。施設内から外への出入りは24時間可能ですが、二階の出入り口の扉については安全のため20時以降施錠している。身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催している。	身体拘束適正化の指針を定め、身体拘束適正化委員会を年４回開催しており、利用者の状況に沿ったケアの方法等の意見交換や事例も提示しながら認識を共有している。また内部研修も計画的に年２回実施し身体拘束（１１項目）及び虐待の早期発見（６０項目）のチェックリストによる確認に務めるなど拘束や虐待の無い尊厳や思いを尊重したケアに取り組んでいる。スピーチロックを含む不適切なケアを見受けた時は、その都度助言等を行って改善を図っている。成年後見制度を１人の利用者が活用中で人感センサーの使用については事前に説明し了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内定期研修にて高齢者虐待防止法を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。虐待の種類や具体例を学び、１人１人が常に意識して業務に臨んでいる。虐待防止委員会を年に2回、と入職時に実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用	社内定期研修にて権利擁護について日常生活自立支援事業や成年後見制度を学んでいる。現在１名成年後見制度を活用しており、後見人とは連絡を取り合い連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についての説明を行い、不安や疑問点等がないか確認をとりながら理解に努め十分に納得をして頂いた上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様については何かあればその都度ご意見を頂き、また、年２回ご家族様へアンケートを実施しています。頂いた意見については、今後の運営の参考にさせて頂いたり、家族会や運営推進会議にて話し合い改善を図っている。	利用者の思いや意向は日頃のケアの中での会話や仕草等から汲み取り、家族からの意見、要望は面会や家族会（年２回）、電話、意見箱、家族アンケート（年２回実施）等で把握に努めている。また、毎月発行の「ショコラだより」には写真やコメントで利用者毎に近況を伝えながら意見、要望を頂いてケアの改善に取り組んでいる。利用者や家族の要望により外出や外食等を実施し、利用者の状況を毎日電話で確認する家族への対応など可能な限り要望に対処している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営やその他の意見等について聞く機会や相談できる関係性を築いている。毎月のミーティング等でもスタッフの意見があれば検討・改善に臨んでいる。管理者、各セクションの代表が集まる会議に職員の意見としてあげている。	管理者及び職員は忌憚なく意見を言い合える信頼と協力の関係を築いており、日頃の業務の中や毎月のミーティング、グループライン等で意見や要望を出し合い、随時、個人面談も実施して業務やサービスの向上に取り組んでいる。管理者は職員からの相談等に助言、指導に努めながらスキルアップを図り、休憩時間の確保や有給休暇の取得、介護ストレス、プライベートの事情等にも配慮するなど働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を踏まえて就業状況の把握に努めている。各個人の条件にも配慮し働きやすい職場環境を目指している。資格取得のための研修も参加出来るように図っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社が立てている年間の計画を基に、毎月定期研修や勉強会を行っている。ケアの質の向上を目指し普段から助言や指導等を行っている。また、外部の研修の案内や介護福祉士の取得のための研修についても受講ができるように図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や新聞作りを通してグループ内のスタッフ同士が一緒に学ぶ機会や活動を行っている。管理者や各セクションの代表が集まり、運営やサービスの質の向上に向けて話し合いうを定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 　サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人との面談時に意向や思いを確認している。困りごとや不安事については改善や解消に努め、安心して入所ができるように図り、また、信用、信頼して頂けるように関係作りに最善を尽くしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 　サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族についても面談時に意向や思いを確認している。困りごとや不安事については改善や解消に努め、安心して入所できるように図ります。また、信用、信頼して頂けるように関係作りにも最善を尽くしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 　サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の介護状況や困り事を確認し、またその背景や原因にも注目し、必要なサービスを見極めていきます。他のサービスが必要な場合には検討し提案や利用に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 　職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	１人１人の思いを大切にし、個々の能力に応じて日常の中で活躍できる場を提供している。そのことにお互いが感謝し共に生活できる喜びを得ることが出来ている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	4月から感染対策を行いながら居室での面会を再開し、火木日の20分間と定めて実施しています。ご本人を支えていくためにご家族は大切な存在です。途切れることのないように関係作りに努めています。また、日々の様子を「ショコラ便り」にコメントと写真を添えて定期的にお知らせし、近況報告等も電話で行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚はもちろん、知人との面会もあり、入所前からの関係の継続が出来ている。また、馴染みのある場所では声を掛けられたりと会話を持つことがある。ご家族と馴染みのある場所へ外出もされている。※現在はコロナの状況をみながら個々の状況に応じて判断している。	利用者毎の家庭環境や生活歴、馴染みに関する情報等を把握し、家族や友人等との面会を実施している。園周辺や近くの公園への散歩や通院、ドライブによる季節の花見、車窓から街並みの見物等を実施し電話や手紙の取り次ぎも行う等、馴染みの人や場との関係の継続に努めている。また、家族との外出や外食等も市中の感染状況に配慮しながら支援しているが、ボランテイアの受け入れ及びイベントへの家族の参加は現在も控えて貰っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでの食事やお茶、活動については、利用者同士の相性や関係性等にも配慮しながら、心地よい時間を過ごして頂けるよう努めている。また、職員が間に入り、話題の提供や橋渡しを行い関わり合いが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了に伴い、相談や支援を行っている。入院や移行の場合は情報提供を行い責任をもって引き継ぎを行っている。その後の経過等もご家族や移行先と連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を確認している。困難な方はご家族に話を聞いたり、本人の様子から代弁している。また、本人本位で検討している。	日頃の対話や寄り添いの中で利用者が気持ちを表出しやすい語りかけ等の工夫も行いながら思いを丁寧に汲み取り、家族の意向も確認して自己決定を尊重したその人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。利用者の生きがいとなる踊りや音楽の視聴、パズル等の趣味や楽しみ事、家事（調理の補助や片付け他）等の取り組みもプランに反映させて個別に支援し、自己肯定感の修得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生い立ちから現在までを本人や家族からの聞き取りを行っている。医療機関や前事業所がある場合は情報提供を求め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課に沿っての過ごし方や心身の状態、残存機能や能力について記録している。朝礼時の申し送りやユニットミーティングで情報を共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニットミーティングにて評価し、現状の把握、課題や問題点があれば改善や方向性を検討している。また、本人・家族・主治医に意見や意向を確認し現状に即した介護計画の作成を行っている。	利用者や家族の意向を十分に汲み取り、主治医の指示や毎月のミーティングやモニタリング時の職員の意見、日々の記録等を基に、残存機能や習慣、楽しみ事等利用者の特性に配慮した介護計画を作成して改善に努めている。定期の見直しのほか利用者の状態に変化が見られた際には実態に沿った計画に変更し、利用者や家族の理解を得てケアに取り組んでおり、職員は実施状況を申し送りや業務日報、支援経過記録等で共有している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は日報に記入し、個別の支援経過記録の入力を行っている。日々の申し送りで情報を共有し、個別での取り組みや結果、気付きについては個別レク実施記録表を用いてユニットミーティングで評価や検討を行っている。介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、訪問診療、訪問歯科診療、訪問マッサージ、福祉用具、通院による透析治療、訪問カット、宅配弁当等の利用、同じ建物内の機械浴の利用等柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりを大切に共助の関係を目指しています。近隣の方から野菜などを頂いたり、調理法を教えて頂いたりと良い関係が築けています。地域のボランティアによる踊りの慰問の際は地域の方にも案内し一緒に鑑賞するなど地域に開けた施設をめざしています。（踊りの慰問はコロナ禍以降は自粛させていただいております）		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向や適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医の選択を行っている。通院は家族も同行を基本としているが、必要時には家族の了承のもとで職員が同行している。かかりつけ医、ご家族、事業所との連携も図れている。	入所時に病歴等を把握し利用者や家族が希望する医療機関での治療を継続しており、現在４医療機関（内科、精神科他）がかかりつけ医で、歯科も訪問診療で治療している。主治医による定期的な訪問診療（月２回）や通院を実施し、他科受診は家族と協力して対応している。２４時間医療連携の体制が構築され、医療機関の看護師がほぼ毎日来訪して健康管理や健康相談等に対応しており、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は医療連携看護師と連携を図り、通常時の状態の把握、状態に変化が見られた時には、必要に応じて主治医への連絡・調整、必要な看護が受けられるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関へ入居者の情報の提供を行い、入院中は面会や電話により医療連携室の相談員や入退院支援の看護師と情報交換等の連携を図っている。退院前は退院カンファに参加し専門家からの退院後の生活がスムーズに行えるように助言を受けている。また、日頃より連携が図れるように医療機関へ出向き、医療機関の状況の確認、事業所の状況についても情報提供を行い関係性の構築に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に向けて説明し意思確認書をとっている。また重度化した場合には再度確認を行っている。重度化した場合訪問看護なども利用しながら、ここでできるケアを十分に説明し納得していただいたうえで終末期ケアに取り組んでいます。	利用開始時や病状の変化に応じて利用者や家族にホームの対応を指針で説明して事前確認書や同意書を貰っている。重度化した時点で主治医から病状等の説明があり、家族、関係者は十分な話し合いを行い、ホームで可能な限りのケアをチーム体制で取り組むこととしており、これまでも多数の看取りを実施している。看取りや重度化、緊急時対応の研修もスキルアップ勉強会の中で実施して認識を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や不測の事態に備えて応急手当や初期対応の訓練を施設内の研修で行っている。また、慌てることのないように緊急時の対応を記載し各セクションに掲示、社用車に常備している。また、消防署が開催している普通救命講習を受講している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行われる消防訓練においては、様々な状況を想定しての訓練に取り組んでいる。消防隊からの助言等も頂き次に活かしている。地域の方々とは日頃からお付き合いを大事にして緊急時には協力を得られるよう働きかけている。また、入居者様には階段からの避難が出来るよう日頃から体力作りを兼ねて階段降りを行っている。	年２回（うち１回は消防立ち合い）夜間想定を含む主に火災発生を想定した災害訓練を小規模多機能ホームと合同で実施し、消火器や防火設備の取扱い等も研修している。連絡網を整備し日頃から地震や風水害等を話題にして防災への認識を共有している。ＢCPに基づき研修の実施や災害発生時の飲料水、メニューを整備しての食料品、介護用品等を３日分近くの法人本部で一括備蓄し、ラジオや懐中電灯、カセットコンロ等も備えている。ホームはオール電化になっており、コンセントの埃の除去や防災用品の点検を定期的に実施している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、尊敬の気持ちを持って対応し、ご本人の誇りを傷つけず、プライバシーにも配慮し失礼のないように言葉遣いや声掛けに気を付けている。	人格の尊重やプライバシーの確保、個人情報の取扱い等については計画的な内部研修で周知を図り、日常的にケアの振り返りも行って適切なケアに努めている。ホームはプライバシーに配慮した構造になっており、排泄や衣服の着脱時の支援は人格や羞恥心、習慣等に配慮した言葉遣いに努め、居室への入室時はノックや声掛けを励行するなど、利用者への敬愛の気持ちと接遇マナーに沿ったケアで取り組んでいる。居室入口の氏名の表示や情報紙等への掲載については利用開始時に利用者及び家族の意向を確認しており、利用者に係る書類も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを引き出せるように普段から関係作りに努め、環境にも配慮しています。また、表失出来ない方は本人の思いを代弁、または本人本位に、自己決定できるように働きかけ、その思いを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿って、運動・脳活性プログラム等一日の流れを作りながら、利用者本人の希望やペースを伺いつつ個別の取り組みも行っている。職員側の都合や本位で物事が運ばないように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	服装は本人の好みに合わせて一緒に選んだり、お化粧やネイル、髪飾りでおしゃれを楽しんでいます。二か月に一回の訪問カットは入居者の好みに合わせて美容師に要望を伝えてカットして頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の誕生日、行事には行事に合わせたメニューを提供している。食事について興味を持ってもらえるよう、盛付けや配膳、片づけを一緒に行っている。年に２回バイキングも実施していましたが、コロナ禍以降は中止しており海鮮丼やデリバリーで対応している。	栄養バランス、嗜好、季節感、代替食等に配慮したメニューを法人の管理栄養士が作成しホームで調理しており、食材の下処理や片付け等を一緒に行う利用者もいる。おせちや誕生日の希望食、デリバリー、松花堂弁当、バイキング、手作りのおやつ、家族との外食等、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。各人毎の食事や水分の摂取状況を把握し定期的な体重測定等で健康維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 　食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士にてカロリー計算されており、摂取量の記録と月2回の体重測定を実施している。また、利用者の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫や、介護用食品も取り入れている。水分も定期的に提供し、排泄面の確認、夏場は脱水にも気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 　口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔の意味を伝え毎食後口腔ケアを実施して頂いている。自力で出来る方も介助を必要とする方も口腔内の状態は把握し、必要に応じて歯科往診を依頼し治療、定期的にメンテナンスを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 　排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛けを行い、トイレでの排泄を促している。リハパン、パットを利用の方が多いですが、失敗に対しても自尊心を傷つけないように配慮している。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態や行動パターンに対応した支援をプランに反映させてケアしている。昼間はさりげない声掛けや誘導等で出来るだけトイレでの排泄に取り組んで排泄機能の維持に努めているが、重度化により常時オムツ使用の利用者（１人）もいる。便秘の予防に食材やヨーグルト、水分の摂取、腹部マッサージや運動にも配慮して自然排便に努めているが、状況によっては主治医の指示で服薬する利用者（数人）もいる。	
44		○便秘の予防と対応 　便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の性状や量を記録し、排便の状況を把握している。水分摂取の促しや体操、運動（階段昇降、散歩の実施）腹部マッサージ、ヨーグルトの提供、食物繊維を積極的に取り入れるなどして、極力、薬に頼らないように努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は週３回（月・水・金）実施している。入浴剤を入れてゆっくりと浸かって頂いている。必要に応じて、手浴・足浴・清拭も実施している。	基本週３回、個浴で支援し、状況によってはシャワー浴や清拭でも保清している。入浴の順番や温度、時間、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、２人介助も取り組みながらゆっくり楽しんで貰っている。入浴後は水分補給や軟膏の塗布を支援しており入浴が職員との良好なコミュニケーションの場にもなっている。入浴を渋る利用者には時間の変更や声掛けの工夫で対応できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や身体状況、生活習慣等も考慮し安眠や休息の支援を行っている。安眠の為にも日中は活動に参加して頂き、寝具類は1週間に1回の交換、明かりや音、室温湿度調整にも気を付け睡眠の妨げにならないように配慮している。安心して休んで頂けるように巡視も定期的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服については薬の目的、作用・副作用、用法や用量について職員全員が把握し変更等があった場合はその都度申し送りしている。服用後の症状の変化について経過観察を行い検討している。主治医・連携看護師へ報告を行い、薬剤師とも連携を図っている。服薬間違いがないようにWチェックを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課の中でもマンネリとならないようにレクリエーションや季節の作品作り等工夫を行っている。また、食材の下ごしらえ、料理の盛り付けや片付け、洗濯物たたみ、おしぼり巻などをそれぞれに役割と達成感をもって行っている。個々に園芸などの趣味を取り入れ、日常生活を楽しめるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などには、気分転換や体力作りを兼ねて、散歩や外気浴に出かけている。年間行事計画を立て、花見や秋の遠足はご家族の協力も得て一緒に出かけられるように支援している。本人の希望により墓参りにご家族と出掛けている。※コロナ禍以降自粛しているが個々の状況に応じて判断している。	天候や体調に配慮しながら園庭での外気浴や車椅子も活用しての園周辺の散歩を日常的に行い、ドライブによる紫原公園等での季節の花見（桜、コスモス他）、車窓から馴染みの街並みの見物等を計画的に実施し、家族との外出、外食等も感染予防に配慮しながら推奨している。節分や夕涼み会、スイカ割り、餅つき、運動会等、季節ごとの恒例行事もホームで実施してリフレッシュに取り組んでいるが、コロナ感染を憂慮して全員での外食や買い物は控えている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人・家族と話し合い、それぞれの入居者の管理能力等を検討し、希望に応じて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持している方もいらっしゃり使用に対しては制限はありません。ご家族からの電話の取次ぎも行っています。手紙のやりとりも途切れることのないようにスタッフが支援しています。　本人にかわって日々の様子を「ショコラ便り」にコメントと写真を添えて定期的にお知らせしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは天井が高く天窓もあり明るく気持ちよく過ごせる空間となっています。快適に気持ちよく過ごして頂ける様に音や匂い、室温なども配慮しています。また季節の花や飾り、作品なども掲示し楽しんでいただいております。	２階建ての２階部分に設置されており、階下は小規模多機能ホームになっている。ホーム全体がバリアフリーの余裕ある広さで高い天井や天窓の構造で明るく、空調や整理整頓、感染予防の消毒薬の設置等、十分に配慮されている。ホールにはテーブルやソファ、テレビ等が動線や利便性、利用者間の関係性等を考慮して設置され、季節に応じた利用者の作品を掲示し、台所からは調理の音や臭いが伝わるなど家庭的で和やかな雰囲気となっている。プランターには季節の野菜等が植えられて散歩時の利用者は日常的に四季を感じながら愛でている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごされる方が多いですが、その時々の入居者様の気分や体調に合わせて席配置等配慮しています。気の合う方同志会話を楽しまれたり、お一人で過ごしたい時には窓辺や居室でゆっくりと過ごして頂いています。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 　居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に従来使っていた馴染みの家具や装飾品を持ち込んでもらったり、本人が居心地良く過ごせるように工夫しています。先祖供養のため位牌や過去帳を持参されている方もいらっしゃいます。	居室はフローリングに腰高窓の構造でエアコン、ベッド、洗面台、クローゼッドが備えられ、過度なケアとならないように利用者に確認しながら清掃や整理整頓の支援に務めている。利用者は愛用していた寝具やテレビ、家族写真、位牌、過去帳、小物等を持ち込み、自身の作品や頂いた品物等も飾るなど家庭同様に居心地良い環境を整えて安心した日々を過ごしている。居室を戸惑うことの無いように意向に沿って入口には折り紙等で氏名を表示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 　建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人のできる・出来ないをアセスメントし身体状況にあわせて自立した安全な生活が送れるように配慮しています。施設内はバリアフリーで、必要な箇所には手摺りを設置しております。		

Ⅴ アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に１回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない